

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立吉田中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上の項目では「伝え合い活動」はほとんどの職員が意識して授業の中に仕込むことができた。生徒も学習内容の理解につながっていると答えている。マイプランについては意識の高まりが見られ、個人の取組が充実したことにより、学力状況調査の結果も高い数値を示し良好な結果となった。ただ、学力向上対策シートとの関連づけがまだ十分とは言えず強化する必要がある。</li> <li>心の教育の項目では豊かな心を身に付けるための道徳教育、人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できた。また、生活アンケート等を活用して、いじめの早期発見・早期対応を図った。夢や目標の実現に向けて生徒と保護者で意識の開きがあり、改善させたい。</li> <li>業務改善・働き方改革の項目ではコロナ禍の中、学校行事や部活動など工夫改善がなされたところもあり、時間内での業務遂行ができ、時間外勤務時間の削減につながった。</li> </ul>
2 学校教育目標	賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9 年間の学びのなかで～
3 本年度の重点目標	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③たくましい心身の育成 ④働き方改革の推進 ⑤小中一貫教育並びに地域とともにある学校づくりの推進

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上とする。	・校内研修等で全職員が学力向上対策シートの共通実践を共有し、マイプランにつなげた取組の実践する。	A	・マイプランの成果指標を達成できたという職員の割合が1回目のアンケートより7.8ポイント増えた。個人の取組が充実した結果、12月の県の学習状況調査ではほぼすべての教科で県の正答率を上回った。今後は今回の調査結果を分析し、授業改善に向けた取組につなげていきたい。	A	・学力向上の為に工夫などで実力向上ができて良かった。 ・よく努力なされていると思います。	学力向上対策コーディネーター
	○「吉田メソッド」の深化	○「主体的・対話的で深い学び」を引き出す発問の工夫を実践した教師を80%以上とする。	・①相手意識・目的意識をもった課題設定の工夫 ②思考が深まるような「考える」「伝え合う」過程の工夫 ③視点を示した「振り返る」過程の工夫の3つを意識して授業を行う。	A	・「友だちタイムでの伝え合い活動は学習内容の理解に役立っている。」はよくあてはまる生徒が69%から69.1%と3.6ポイント増加した。「主体的・対話的で深い学びを引き出す発問の工夫を実践した。」ではよくあてはまる回答した職員は中間評価より8%増加し、大体あてはまるを合わせた全ての職員が実践できている。今後は、「深い学び」と「基礎学力の定着」を図っていきたい。	A	・友だちとの伝え合いは友人と話し合うことができているのでは… ・生徒が休んだときの授業の振り替えなどはあっていますか ・「深い学び」難しそうですね。	研究主任 各教科主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒90%以上とする。	・道徳科の授業の充実 ・生徒主体の人権学習の推進	A	・道徳や人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は92%であった。 ・道徳科の研究授業、事後研究会を2回実施し、教員間の研修、共通理解を図った。また、11月に保護者参観のふれあい道徳を実施した。 ・生徒会を中心とした平和集会や人権集会を実施し、戦争、世界平和や差別やいじめのない社会について考える機会とすることができた。	A	・今の教育を続けてほしい ・意識の高さを感じます。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生徒・保護者の学校はいじめに対して未然防止、早期発見、組織的対応をしているという肯定的な評価80%以上をめざす。	・自他を尊重し、支持的風土のある学級・学校づくり ・日頃の観察、アンケート等による早期発見と組織的対応	A	・生徒の98.2%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえていて、保護者は96.0%であった。また、1年の生徒はあがり道ではまらないと回答している。昨年および中間評価より減ったものの、手立が必要である。 ・「先生あのおね(生活アンケート)」を毎月実施し、定期教育相談等早期発見・対応につなげた。どの月も良かったと回答している生徒がほとんどであった。「相談箱」も再度紹介し、継続活用している。	A	・1.8%の生徒の気持ちを充分わかるようにしてほしい。 ・取組の積極性が求められているのかも？	生徒指導主事 教育相談担当 人権・同和教育担当
	◎志を高める教育活動の実践(自主・自立)	○自己実現に向けて努力する気持ちをもつ生徒80%以上をめざす。	・自分の進路について主体的に考えさせたり、全校スピーチなどを通したりして、生徒の将来設計能力や意思決定能力を高める。	A	・自己実現に向けて努力する気持ちをもつ生徒の割合が中間評価の数値と同様に30%以上となったことは、学習や道徳、総合的な学習の時間の学習の成果が出ていると考えられる。 ・全校スピーチについては、生徒の実態に合ったトピックを与えたことや、聞き手を意識した発表態度の指導により、「聞く人に伝わるような工夫を行った。」と回答する生徒の割合が90%となった。これは、中間評価と比較すると10ポイントも上昇している。	A	・全校スピーチで子供達が話す力を出せて、それが何事にも自分のためになるのでは。 ・志を高める活動…素晴らしいですね。	進路指導主事 総合的な学習の時間担当
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上をめざす。	・個別の健康観察を実施し、基本的な生活習慣の改善を図る。 ・関係機関と連携し「食育教室」を実施。また、食育だよりで給食週間等の広報を充実する。	A	・「早寝・早起き・朝ご飯」実践カードや学校からの便り(食育だより)を継続して行うとともに、食育期間での広報を充実させた。今回は、朝食喫食率が100%となった。継続および食事の内容面において今後も指導が必要である。 ・関係機関と連携し、「食育教室」を実施し、食育の充実を図った。	A	・朝食100%はすごい。 ・「食育だより」子供は目を通しているのでしょうか？配布時に先生と一緒にみるようになると意識が違ってくるのではないのでしょうか。 ・細かく行き届いた実践だと思います。	給食・食育担当 保健主事
	○健康の増進と体力の向上及び衛生管理の徹底	○自他の健康と環境衛生を意識した生活を送る生徒80%以上をめざす。	・運動・休養・食事のバランスの良い生活や感染症予防対策に対して生徒が意識できるようにする。	A	・生徒の98.2%が健康や体づくり、感染予防を意識した生活を送っている。保護者は96.1%であった。授業や活動での声掛けや放送による注意喚起等を随時行った。今後も健康課題を含めた指導や取組を継続していく。	A	・コロナも出ていなくて、予防の結果では。 ・コロナ感染防止が健康体力づくりにいい方に影響しているのかな…	保健体育教科主任 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間月45時間以内を目指す業務改善、確実な定時退勤日の実施	A	・4月から12月までの全職員の平均値は30.07時間であり、時間外勤務時間は月45時間を15時間ほど下回っていた。個別に見ると教務主任が平均で70時間ほどとなっていて、部活動指導の軽減などで業務の平準化を図る必要がある。 ・コロナ禍の中、部活中止になる期間が多かったことで、業務が勤務時間で収まることが増えた。	A	・部活などの時間の工夫で先生たちの時間も、もっと少なくすることができるのでは。 ・全職員が目標を達する方法は本当にないです。まだまだ難しいですね。	管理職
	○業務の効率化と生徒と関わる時間の充実	○コロナ禍における行事の精選と運用の工夫、ICTの効果的活用	・学校行事等、必要性を見極め継続・廃止について検討する。	B	・コロナの状況によって学校行事等の実施、延期が左右され、時期により偏りがあった。規模や開催条件を変更しても実施するものとそうでないものをはっきりと精選する必要がある。 ・授業での活用等タブレットを使用する機会が増えた。	B	・なかなか大変ですね。	教育情報化推進リーダー 管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
○小中一貫教育の推進	○9年間の学びを意識した小学校との一貫教育の充実	○小中教員の相互乗り入れ授業や交流授業を昨年より30%増やす。 ○小中合同の行事を活性化させるための工夫・改善	・小中連絡会を定期的に行い特に教務主任の連携を密にして計画を立てる。 ・小中合同の打合せ時間を計画的に設定する。	A	・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、小学校サマースクールへの中学生の派遣やフロンティア大作戦、ブロック集会、小学6年生への中学校の授業を見学した乗り入れ授業などの交流を昨年度比33.3%増加することができた。また、コロナ禍においても、児童生徒間や職員間の小中合同の行事を実施し、昨年度よりも行事の活性化ができた。	A	・ならでは…の発想の転換が大事になってくるのでは。	
○地域とともにある学校づくり	○つながりを大切にし、郷土愛を育む「吉田学」等の推進	○地域と連携したボランティア活動への参加生徒数を全校生徒数の60%以上にする。	・「吉田学」を実施する際に、地域人材を活用する。 ・地域から学ぶだけでなく、地域に還元する広報活動を取り入れる。	A	・コロナ禍のため地域でのボランティア活動はできなかったが、地域連携の取組として1月に小中合同でフロンティア大作戦を実施した。ハンジュー等の苗をプランターに植え、公民館や地域の事業所等に寄贈した。また、公民館長によるふるさと学習や吉田焼きのゲストティーチャーによる陶芸教室等実施できた。	A	・接してのボランティアは難しいですが、年賀状や敬老会とかにお手紙で質問や返事やりとりがあれば交流の場が取れるのでは。	ボランティア担当 管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上の項目ではマイプランの成果指標を達成できた職員が増え意識した授業実践に繋がっている。学力状況調査の結果も高い数値を示し7割の教科で県の正答率を上回り良好な結果となった。観点別では落ち込みが見られる教科も見られるので分析して授業に生かすことが必要である。</li> <li>心の教育の項目では道徳教育、人権・同和教育ともに、充実した教育活動が展開できた。いじめの早期発見・早期対応体制の充実については、生徒の98.2%がいじめのない学校づくりを肯定的にとらえている。自分の夢や進路について考えるようになった生徒が増加した。今後も将来設計や意思決定能力を向上させる手立てを講じていきたい。</li> <li>業務改善・働き方改革の項目では、コロナ禍の中ではあったが職員員の平均で時間外勤務時間は月45時間を15時間ほど下回った。学校行事等の規模や開催条件を変更しても実施するものとそうでないものをはっきりと精選し、加えてタブレット等のICT機器の効果的活用についてさらに検証していく必要がある。</li> <li>地域とともにある学校づくりの項目では、地域に向向活動は制限されたが、地域人材の活用など感染対策を十分にしながら地域連携の取組を実施することができた。次年度もコロナの状況に合わせて実施する活動を増やしていきたい。</li> </ul>
--------------------	---